



進学先

## 大阪公立大学 商学部

明渡 亮さん

桐蔭高校

バレーボール部

### 高校入学後、Academy Campusに来てくれたきっかけや、部活をどう決めたかを教えてください。

**明渡:** GES(小学生部・中学生部)に通っていたので、桐蔭に合格してからもそのままアカデミーに。バレー部にしたきっかけは、高校では勉強も大変になるだろうと思って、授業についていくためにも土日どちらもガチガチに練習があるというのじゃなくて勉強時間もちゃんと確保できる部活に入りたいと考えていたので。バレー部は「初心者歓迎」って言ってたし、中学からの友達もけっこう多かったので入部を決めました。で、最初は、アカデミーに通っているバレー部は二人だったんですけど、高2のときに塾を探してた友達に「俺らこれからアカデミーの授業に行くから一緒に来る？」って言って、一気にみんなを誘い込みました(笑)。

### 高1・高2の部活と勉強の両立では、どんなことを意識していましたか。

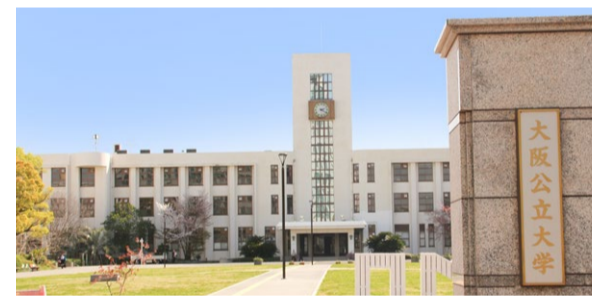
**明渡:** 僕は電車通学だったので、その時間は絶対にターゲット(英単語ターゲット(旺文社))を見るとか古文単語見るということはやってました。



### 志望校・出願校を決めた時期やきっかけは？

**明渡:** たぶん高2の秋ぐらいには、神戸大学経営学部と決めました。それまでは教育学部系統に行くか、経済・経営学部系統に行くかを迷っていて。高2に入ったぐらいから、経済・経営系に行きたいなっていう思いが強くなって、近くの国公立で経営学部があるところという神戸大かなと考えていました。で、共通テストが終わって前期の出願ってなったときに、神戸大学・大阪公立大学・岡山大学でめちゃくちゃ悩みました。そのときはマジでしんどくて。恥ずかしいですけど家族の前で大泣きして「どうしたらいいのか、もう分からん」「もう俺、勉強やめる、就職する」って言ったこともありました。本当に親も困らせて申し訳なかったんですけど、でもやっぱりそれぐらい大きい決断でした。岡山と立命館、どちらも合格できたら？と聞かれたとき、立命館に行きたいと思うかもしれないと考えていて。神戸は受けたかったですけど、リサーチで自分の位置を見たときに定員からは漏れてたから、二次試験で追い抜かないといけない状況で。その気持ちで一か月ずっと勉強できるのかって考えたときに、ちょっと厳しいかもってなって。それで最終、公立大に決めました。でも、決めたあともやっぱり悩んだし、本当にこれでよかったのかってずっとモヤモヤしながら勉強してました。僕めんどくさいタイプなんで(笑)、すぐ切り替えられないんですよ。でも、もう考えても仕方ない、やるしかない！と思って気持ちを切り替えました。今思うと、その時間は無駄だったな

と思います。決めたのならいろいろ考えずに勉強をしないとイケないと思う。



### 大学進学後、したいことなどはありますか。

**明渡:** 公認会計士の資格取得を目指してみたいという思いがあります。本当にその試験を受けるかは分からないんですけど、興味があることを勉強して頑張っていきたいと思います。高校生活を通して、特に受験期では家族にすごく感謝しています。夜に駅まで迎えに来てくれたり、朝は僕より起きるの早いのにご飯やお弁当も作ってくれたり。だからこそ、立派な社会人になって恩返しできるように頑張ります。

### Academy Campusのことについて教えてください。

**明渡:** 高1・高2の勉強は定期テスト対策が中心だったから、アカデミーで勉強の習慣をつけることができたっていうことがすごく大きかったかなと思います。高1は特に。英語(桐蔭アドバ

ス英語(ACクラスライブ授業))は毎週単語テストもあったので、嫌でも覚えなれないって意識できました。

高3になってからの授業(ACクラスライブ授業)では、まずは長沼先生の国語。国語は苦手だったんですけど、それでもすごい分かりやすかったです。模試のたびに面談もやってくれて、現状をより把握しやすかったです。

あと、吉田先生の英語。大問ごとの解き方を教えてくれたので、その解き方を意識して演習を重ねていったらやっぱり点数がぐんって伸びてきたから、すごいよかったなって思っています。それと、冬期講習で受けた英作文対策の授業。二次の英作文対策で、自分一人でも効率よく勉強できるようにAIをうまく使う方法も教えてもらえました。それまでも自分でAIを使ったこともあったんですけど、だいたいでしかできてなかったんです。吉田先生が、AIに添削してもらったときの細かいプロンプトの打ち方まで教えてくれたのでやってみたら、やっぱり細かさとか正確さが全然違った。それを見て合格最低点と照らし合わせて、じゃあ本番でもこのぐらい書いたらいいのかという感じがわかって。それで英作も上達したと思います。

サテライン(代ゼミサテライン講座)では、貫先生の数学(貫 浩和 講師<数学的思考の鍛錬 数学ⅠAⅡBC編>)がすごいよかった。一学期も夏期講習も二学期も冬期も全部、正射影ベクトルの話があって。それだけ言うんだからめっちゃ大事なんだろうなと思って、ちゃんと勉強してたらそれが二次試験の本番で大問の一つで丸々出てきて！本当に問題の流れも誘導の仕方も全部一緒だったので「うわっ！やった！よっしゃ！」と思って。計算が複雑だったので、計算が合っているかどうかは分からないけど、方針は合っていると思う。めっちゃ嬉しかったしワクワクしました。

あとは日本史(土屋文明 講師<共通テスト日本史探究>)。日本史は勉強やりたくないって気持ちでずっといたんですけど、サクナビクス([共通テスト日本史探究]の補助教材。土屋文明講師が作成した情報整理マッププリントを用いた効率的な学習教材。YouTubeの音声教材と連動し、構造化された知識を「見て・聞いて・書く」ことで、短時間で定着させる。)で視覚的に見られるようになったので、苦手でも取り組みやすかったと思います。音声教材もちゃんと使いました。一人でご飯を食べながらとか隙間時間に勉強できるというのがすごい良かったです。

あと、共テリハ(12月末の二日間、共通テスト当日と同じ時間配分・会場の雰囲気共通テスト本番を体感するAC特別講座)。休憩時間をどう過ごすか、何をやっていくか、ご飯はどうするか。そういうことを一回体験するだけでもやっぱり全然違うなって思いました。で、そのリハでは点数は良くなかったんですけど、もし、初めてが共テ本番でリハぐらいの点数になってたのかって考えたら、練習できる機会があって本当によかったなって思います。

他は、EQ(英語基礎カトレーニング講座<English Quest>:テストに合格するまで帰れないAC伝統講座)も受けました。熟語は優先順位も低いと思うし、英語の勉強を始めるっていうときにじゃあ熟語をやる！ってあんまりならないと思うので、抜けがちなところを嫌でも覚えられたからすごいよかったです。

あと、秋特訓(AC特別講座)では、吉田先生の共テ英語リスニング対策(ACクラスライブ授業)が良かったです。リーディングと同じような感じで、解き方や普段の勉強の仕方まで丁寧に教えてもらえて。集中して効率よく勉強できたのはよかったと思うし、他の学校の子と一緒に勉強できたのもよかった。二次試験とか私立受験の当日は、やっぱり見たことない人たちがばかりなので、そういう環境で勉強したということもプラスになったと思っています。



### 勉強時、意識・工夫していたことを教えてください。

**明渡:** 僕は同じ場所でずっと何時間も集中して勉強するっていうのが苦手だったので、アカデミー、家、カフェ、家の近くの図書館とかをローテーションしてました。家からアカデミーは遠かったけど、移動時間もちょうどいい気分転換になったので意外と苦ではなかったです。アカデミーの自習室は、高1・高2のときに先輩が必死に勉強している姿を近くで見ることができたので「俺らも来年とか再来年はこうなるのか」という刺激を受けながら勉強できたことがよかったと思います。あと、過去問は早めに解

いてみた方がいい。高3の4月に赤井先生から過去問解いてみようって言っていただいて。最初は、僕にできるのかなって怖くて、けっこう先延ばしにしてたんですけど、やっぱり解けなくてもいいからちゃんと傾向を把握するために自分で解いてみるっていうのは大事ななと思いました。他に勉強で工夫したことは「朝は数学とか頭を使う勉強、昼は英語や国語の読解系、夜は暗記」というサイクルにしてみました。高3の勉強時間は、春休みは6時間ぐらい、夏は9時間ぐらい、冬は10時間ぐらいはやってたかな。

### 後輩へのメッセージをお願いします。

**明渡:** 高1・高2から英語の勉強はやっておいた方がいい。単語だけでもやってたら高3になってからが全然違う。数学も高1・高2で4STEP(数研出版)の基本例題とか主要な単元はやってたから、サテラインの授業もスムーズに受けることができたんだと思う。だから、英語と数学の基本的なことはやっといたらいいと思います。あと、模試で一喜一憂しないっていうのも大事。僕は「一喜」がめっちゃ危ないと思う。模試の結果がよければ、やっぱりふにゃってなってたので、それはよくなかったなって。今考えたら、すごいもったいなかったなって。でも、受験を通して僕が一番伝えたいことは、自分の掲げた目標に向かって貪欲に粘り強く頑張るっていうことが一番大事ということです。もちろん合否も大事。でも、それよりも、そこに向かう過程。僕はここまで長い期間努力したのは初めてで。いい経験になったし、受験が終わってやり切った！って思えた。その経験は自分を成長させてくれるし、これからの人生にも必ず役に立つものだと思う。合否ももちろん大事ですけど、それだけにこだわらずに努力を継続するということを頑張っしてほしいと思います。

### インタビューを終えて

明渡君は高校入学後も継続して塾に通いながら、バレーボール部と勉強を両立させてきました。通学時間や隙間時間を上手く活用し、コツコツと基礎力を積み上げる姿勢がとても印象的でした。高2の秋頃に志望を定めた後も、出願校を直前まで悩み、時には不安から感情があふれることもありましたが、しかし、その悩みを家族と何度も話し合いながら整理し、自分なりの結論を導いていく過程こそが、彼を大きく成長させたと言えます。

学習面では、特に現代文や古文について積極的に相談を重ね、自分に合った教材を選び抜くことで、苦手科目とも向き合いながら着実に力を伸ばしていきました。また、勉強場所を変えて集中力を維持したり、科目ごとの時間配分を意識したりと、自分に合った学習スタイルを確立



し、効率よく受験勉強を進めていました。明渡君の姿から学べるのは、「悩みながらも前に進み続けること」の大切さです。進路や勉強に不安を感じることは誰にでもあります。その中で考え、行動し続けることが結果と成長につながります。これから受験を迎える皆さんも、一人で抱え込まず、周囲と対話しながら自分なりの答えを見つけていってください。明渡君には、大学での学びを通して可能性を広げ、ぜひ新たな挑戦を続けてほしいと思います。今後のさらなる活躍を期待しています。

AC県庁前校カウンセリングスタッフ 赤井 栄木